

「読書感想文コンクール」を実施しました

葛飾区では、児童・生徒の読書活動を推進するために「読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生1万8千273点、中学生5千146点の応募があり、362人の作品が入選しました。各部門の最優秀賞・優秀賞・佳作入選者は次のとおりです。

■小学校低学年の部

最優秀賞 二階堂 幸叶(にかいどう さちか・幸田小1年)

優秀賞 石島 かな(いしじま かなな・葛飾小2年)

佳作 渡辺 悠人(わたなべ ゆうと・奥戸小1年)

朝日 佑香(あさひ ゆうか・道上小2年)

金子 朋矢(かねこ ともや・末広小1年)

笠上 隼平(かさがみ しゅんぺい・上小松小2年)

最優秀賞 篠藤 由奈(しのとう ゆな・東水元小4年)

優秀賞 真田 茉依(さなだ まい・梅田小4年)

小池 美海(こいけ みうな・西小菅小4年)

佳作 下川 昂(しもかわ すばる・二上小3年)

内山 ソニア(うちやま そにあ・高砂小3年)

青井 慈陽(あおい じょう・柴又小4年)

最優秀賞 内田 侑冴(うちだ ゆうご・上平井小5年)

優秀賞 齋藤 彩(さいとう あや・半田小6年)

西野 日菜子(にし の ひなこ・中之台小6年)

田中 瞳土(たなか とうし・葛飾小6年)

河合 榎美(かわけ えみ・二上小5年)

岡田 悠希(おかだ ゆうき・花の木小5年)

■中学校の部

最優秀賞 石田 美郷(いしだ みさと・堀切中3年)

優秀賞 橋本 凜花(はしもと りんか・金町中2年)

本郷 莉奈(ほんごう りな・亀有中3年)

山室 結月(やまむろ ゆずき・青葉中1年)

村山 いつみ(むらやま いつみ・水元中2年)

隋林 祐希(すいりん ゆき・新宿中1年)

秋澤 菜々海(あきざわ ななみ・奥戸中1年)

藤巻 柚乃(ふじまき うの・亀有中2年)

鷹見 洗士郎(たかみ こうしろう・常盤中2年)

朴 希紙(ぼく ひじ・新小岩中1年)

指導室 ☎(5654) 8573 (敬称略)



中学校の部・最優秀賞 今を生きるために大切なこと

堀切中学校3年 石田 美郷

「生まれてきた意味は一つだけではない」と私は考え直させられることになった。そのきっかけとなったのは、この『くちびるに歌を』という本と出会ったからだ。

五島列島のとある島の中学校の合唱部顧問であった松木ハルコの産地に代わり、柏木ユリが一年間という期限付きで顧問を任せられる。Nコンの課題曲「手紙」に「君へ」にちなんで部員一人一人が十五年後の自分に向けた手紙を書く。悩みや本音を書くことで自分に素直になれる。部内の絆が強まっていき、長崎県大会本番に挑むことになる。

初めは、桑原サトルの手紙の中の「生まれてきた意味がある」という言葉は聞かえが良かった。本当に良い言葉なのかと私は疑っていた。桑原サトルには自閉症を患う兄アキオがいる。サトルの生まれてきた意味は両親の死んだ後兄の世話をすることである。アキオがもし自閉症ではなかったら、と考えるとそれもサトルは幸せなのだろう。両親を安心させてくれる一方で、本当にやりたいことができなくなってしまうのではないかと考えた。私は今中学三年生でサトルと同じであり、進路を決める大切な分岐点に立っている。そんな自分と照らし合わせた時、努力して掴みとっていく未来があるからこそ上を見られると思う。期待がある分不安やプレッシャーを感じてしまうかもしれない。しかしそんな時、自分を見つめ直すから人は成長する。だから、私はサトルの生まれてきた意味は本当の意味だと思えることができる。しかし、兄に与えるより与えられていることの方が大きいというサトルの思いを知って、私は身近な一つ一つの幸せを手に入れることを目標とする人生も、大切な人と一緒に成長していく喜びを日々噛みしめて生きていく人生も良いという考えに変わり、魅力を感じるようになった。サトルはこれからアキオと共に大きくなって、互いへの支えになっていくと思う。互いを大切に思うそんな関係を私は羨ましく思った。

「密度の濃い一学期やったよ。それまでの二年間よりも、ざあーまいるんなことがあったばい」長谷川コトミが口にしたこの言葉には深い意味がある。私は思う。初めはやる気もなく、柏木の美貌目当てに入部した向井ケイスケや三田村リクなど

どの男子に対し、女子内で激しい派閥が起こってしまう。女声合唱派と混声合唱派とが対立していく中で、練習に取り組まない男子に呆れ、部長の辻エリが学校を休んでしまうという事件が起きた。柏木に「悪いとおもってらなから、今からがんばりな、絶対にまああうから」と言われたケイスケは、Nコンに出るために遅れを取り戻そうと決意し、男子を集めて練習を行った。その男子の姿勢に女子たちは次第に心を許し、混声合唱で出ることが決めた。大きく空いてしまった溝を埋めることができたからこそ、九州大会出場という目標に向かって一つになっていったのだと思う。私も夢中で取り組んだことがある。私は三年間バンドミニオン部に所属していた。小学校からのジュニアも多い地域のため、先輩と同じ練習や他校との練習試合など、様々な経験を通していても思うように結果が出ず、嫌になってしまっこともあった。

でも、心が折れかけた時には応援席から声をかけてくれる部員、期待してくる先生、のびのびと活ができる環境を作り支えてくれる家族に背中を押され、何度も救われてきた。そんな自分の味方の存在は、私にとってかけがえのない力になっていた。三年生になったばかりの時には先輩を上回るともめられず、先輩との溝ができていたようにも感じていた。しかし、引退が近づいて一年生が入ってくるにつれて、今までふざけていた男子も先輩としての意識から一年生に声をかけるなど、徐々に頼れる存在になってきた。引退試合の日は試合が私一人だけで、応援には来てくれないだろうと思っていた。しかし、沢山の先輩が応援に駆けつけてくれた。どんなに上手いかななくても、諦めずに前を向いていれば必ず良い方向に向かっていくと実感した。沢山の人の出会いは通して、部員やライバルから刺激を受け、私にとって今を生きるために大切なものを得ることができた。

拝啓 十五年後の自分へ

夢中になれることは見つけていますか。私は三夏の夏、考えが変わる大切な一冊の本に出会うことが出来ました。人生の道に迷ってしまった時には思い出してください。今の私が思う生まれてきた意味は、大きい夢を目指すことだけではなく、日々の喜びや成長を噛みしめることだと感じています。人との出会いを大切に、密度の濃い人生を送っていただきたいと思います。それが自分を支える力に変わると信じています。どんなことがあっても人生に魅力を見出し楽しむこと、その気持ちを忘れずに輝く人生を送っていただきたいと思います。